

国際歯科材料会議 2022 (IDMC2022) 報告

2022年11月4日～5日、台湾・台北市、Chang Yung-Fa Foundation International Convention Centerにて、国際歯科材料会議 2022 (International Dental Materials Congress 2022: IDMC2022) が開催された。本大会は元々2020年の開催を予定していた大会がCOVID-19の感染拡大により延期を余儀なくされ、ようやく開催にこぎつけたものである。本IDMCは2016年のバリ大会以来、実に6年ぶりの開催となった。今回は日本歯科技工学会と国立台湾大学およびTaiwan Academy of Operative Dentistryとの共同での開催という形であった。直

前まで台湾の感染防止水際対策の緩和が不透明であり、主催者側としては心配の尽きない状況であったが、結果的に10月13日より入国ビザの免除、入国後待機期間の撤廃が決まり、日本側から少し参加しやすくなった。とはいえ、開催直前の緩和措置発表ということもあり、オンラインを通じたハイブリッド開催となった。現地参加者 108名 (日本24名、海外84名)、オンライン参加者 187名 (日本173名、海外14名) と盛況であった。

本大会のテーマは“Step Ahead toward the Future of Dental Materials Science”である。大会初日は開会式にて、日本歯科技工学会側の大会長である今里 聡先生 (大阪大学)、台湾側の大会長であるYu-Chih Chiang先生 (国立台湾大学) の挨拶の後、大会が幕を開けた。初日は、日本側から4件、台湾側から3件の招待講演が行われ、また、口頭発表6件、ポスター発表が行われた。



講演会会場



Keynote Lecture



受付



Invited Lecture



開会式

最初の基調講演である Jack L. Ferracane 先生（Oregon Health & Science University）は歯科における Bioactive Materials について、その歴史や定義を踏まえながら現在、過去、さらには未来の展望を解説いただき、参加者に多大な感銘を与えた。ポスター発表件数は 100 件であり、台湾側の配慮で現地参加できない日本人ポスターも全て台湾での印刷、掲示されるという厚遇ぶりであった。2 日目は日本側から 1 件、台湾側から 1 件の招待講演に加え口頭発表 13 件が行われ、さらに午後の後半は共催として台湾国立大学 Biomedical imaging center の特別セッションでの講演が加わった。全体を通して質の

高い発表、さらには活発な議論が繰り広げられ、非常に熱の籠った学会となった。また、台湾側の心のこもった準備、会場設営、おもてなしに日本側の参加者は大いに感激した次第である。この大会を通じて、日本と台湾のとても密な関係が再確認され、今後の歯科材料・機器研究における両国の協調的な関係を築けたことは大きな収穫であった。

松本卓也

岡山大学学術研究院医歯薬学域 生体材料学分野
日本歯科理工学会 国際担当常任理事



口頭発表



ランチョンセミナー



ポスター会場



BMI Center Session



ポスター会場



企業ブース



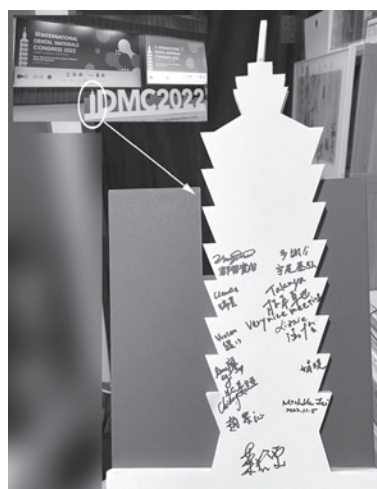
閉会式



Yu-Chih Chiang 先生と運営チーム代表



閉会式



プレートにサイン



記念撮影

※写真は IDMC 準備委員会より提供